

# [かな-4], [総-10] 各種「送りがなのつけ方」一覧表

以下の表は、「送りがな対照表」[かな-1]と「送りがなのつけ方・方針一覧」[かな-3]とを一つの表にまとめ、各種送りがなの通則の部分の比較と、さらにその語例の送りがなのつけ方の異同とを一覧できるようにしたものである。

1 比較対照した資料は、次の7種である。

## A 現行のもの

- ① (告示) 「送りがなのつけ方」内閣告示第1号 (昭和34年)
- ② (朝日) 「送りがなのつけ方」朝日新聞社 (昭和37年)
- ③ (法令用語) 「法令用語の送りがなのつけ方」内閣法制局  
(昭和35年)

## B 過去のもの

- ④ (公用文) 「公文用語の手びき」総理庁・文部省 (昭和22年)
- ⑤ (中等国語) 文部省著作教科書「中等国語」(昭和23年)
- ⑥ (案) 「送りがなのつけ方(案)」文部省国語調査室  
(昭和21年)

⑦ (送仮名法) 「送仮名法」国語調査委員会 (明治40年)

2 とりあげた語は、告示「送りがなのつけ方」通則に例示された語である。

3 表中の略号は、右に示した表のとおりである。

4 通則部分のぬきがきは、ほぼ原文のとおりにしたが、「説明」「例」などは、省略したところもある。

5 [かな-1]および[かな-3]でとりあげた新聞協会の「新聞用語集」、NHKの「用字用語辞典」は、告示との異同が少ないので、今回は省略した。ただし、名詞の一部には、参考のため、この両者の用例をつけ加えてある。

6 他の資料に例示してある語例で、告示で掲げてある以外のものは参考のため、[他の例語 →]として、その一部を示した。

### 表中の略号

- 告示の送りがなに同じ。
- / 資料にその語が例示されていない。
- [ ] 送っても、送らなくてもよい。
- ( ) 告示の例語とは別語であるもの。
- ※ 参 考

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
方 針	1) 活用語およびこれを含む語は、その活用語の語尾を送る。 2) なるべく誤読・難読のおそれのないようにする。 3) 慣用が固定していると認められるものは、それに従う。	この用例を定めた基本的な考え方は、「新送りがな」の送りすぎの緩和と、今日までの「慣用」の尊重ということであるが……	昭和34年7月11日内閣告示第1号をもって公示された「送りがなのつけ方」によって作成した。		「この教科書の送り仮名は、なるべく仮名を多く送ること、同じ漢字にあてゐる音節を一定しておくなどがその特色である。」 <国研「資料集」から>		送仮名法 4 綱領 1) 活用語ノ語尾変化ヲカキアラハスコト。 2) 語ノ末ニ附属スル助詞、助動詞ヲカキアラハスコト。 3) 語ノ末ニ含マルル接尾語ヲカキアラハスコト。 4) 漢字ヲ音読スルモノハ漢字以外ヲカキアラハスコト。

## 第1 動 詞


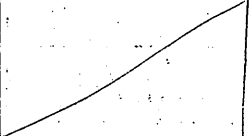
	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
動 詞	1 動詞は、活 用語尾を送る。		1 動詞は、 活用語尾を 送る。	第1 1 動詞は、 活用語尾を 送る。	第1 1 動詞は活 用語尾を送 る。	第1 1 動詞は、 活用語尾 を送る。	第1則 漢字ヲ 以テ活用語 (動詞、形容 詞、助動詞) ヲ書キアラハ ストギハ語尾 ノ活用スル部 分ヲ送仮名ト ナスベシ。
一 般	書 く		○	○	○	○	○
	読 む		○				
	生きる		○				
	考える		○				
	他の例語 →		掲げる, 免れる 交える, 混ぜる	起きる, 受ける, 研究する, 浮ぶ, 携える, 捕える, 振う, 荒す, 起 す, 尽す, 積る, 果す, 基く, 司 る, 向う, 分る	起きる, 受ける, 来る, 研究する	起きる, 受ける, 勉強する	起ク, 告グ, 死 ヌ, 思フ, 学ブ, 焼ク, 立ツ, 願 フ, 願ハク

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
動 詞 一 般				実る, 伴う, 確める			
	ただし, 次の語は, 活用語尾の前の音節から送る。	1 次の動詞に限り, 送りがなを「新送りがな」以前の形に戻し, 次のように書く。	1 ただし, 次の語(自動詞又は他動詞をそれぞれ他動詞又は自動詞に転用した場合における対応する語を含む。)に限って, 活用語尾の前の音節から送る。	第1 2 活用語尾を送るだけでは, 誤読・難読のおそれのある動詞は, その前の音節から送る。 (ロ) 音読されるおそれのあるもの	第1 3 活用語尾を送るだけでは, 読み誤られるおそれのある動詞は, その前の音節から送る。 [注意]「群がる」は, 「群れる」との関連が考えられるが, 「ら」を送らない。	第1 2 活用語尾を送るだけでは, 誤読・難読のおそれのある動詞は, その前の音節から送る。	
	表わす (「表す」では	○	○	○	○	○	表 ス

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
動 詞	「ヒョウす」と誤読。）						
	著わす(「著す」ではチョすと誤読。「表わす」と形をそろえた。)	○	○	○	○		著 ス
	現われる(他動詞「現わす」を「表わす」に形をそろえた。)	現れる	○	○	○	○	現 ル
一 般	行なう(「行った」のとき「いった」と誤読。)	行 う	○	行 う	行 う		行ハル
	脅かす(「脅す」では難読,「おどす」と誤読。)	○	○	○	○		
	異なる(「異にする」に合わせた。)	異 る	○	○	○	異[な]る	異[ナ]ル
	断わる(「断った」のとき「たった」と誤読。)	断 る	○		断 る		断 ル

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
動 詞 一 般	賜わる(「賜る」 では難読, 文語 「賜ふ」との関連。)	賜 る	○	○	○	○	賜 ル
	群がる(「群る」 では難読, 「群 れる」と誤読。)	○	○	○	○	○	○
	和らぐ(「和ぐ」 では難読。)	○	○	○	○	○	○
他 の 動 詞 と 関 係 の あ る 動 詞	2 活用しない 部分に他の動 詞の活用形ま たはそれに準 ずるものを含 む動詞は, 含 まれている動 詞の送りがな によって送 る。	1 次の動詞に 限り, 送りが なを「新送り がな」以前の 形に戻し, 次 のように書 く。	(告示に同じ。)	第 1 2 活用語尾 を送るだけ では, 誤読・ 難読のおそ れのある動 詞は, その 前の音節か ら送る。 (イ) 自動・他 動の対応の あるもの	第 1 2 自動・他 動の対応の ある動詞 は, あい対 応するもの の活用語尾 と関係のあ る音節から 送る。 また自他の 対応は見ら れなくても, 他の動詞の	第 1 3 活用し ない部分 に, 他の 動詞の活 用形をふ くむ動詞 は, その ふくまれ てゐるも のの語尾 から送る。 4 活用し ない部分	第 2 則 活用語 ノ活用セザル 部分ニ他ノ語 ノ活用形ヲ含 ムモノハ、送 仮名トシテ之 ヲ書キアラハ スベシ。 (1) 動詞ノ中 ニ他ノ動詞 ノ活用形ヲ 含ムモノ。

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
他の動詞と関係のある動詞				一	<p>活用を含むものは、その含まれているものの語尾から送る。</p> <p>ただし、次の動詞は、慣用に従って活用語尾だけを送る。</p> <p>[注意] 2 「連ねる」「連なる」は、「連れる」との関連が考えられるが、「ら」を送らない。</p> <p>[注意] 3 「交る」「交える」は「交ぜる」との関連が考え</p>	<p>に、他の動詞の活用形に準ずるもの（語尾の音に変化してあるもの）をふくむ動詞は、そのふくまれてあるものの語尾から送る。</p> <p>[注意] 右において誤読・難読のおそれのないものは、そのふくまれてあるものの語尾を送らない。</p>	

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
他 の 動 詞 と 関 係 の あ る 動 詞					られないこと もないが「じ」 を送らない。		
	他の例語 →		交わる(交える), 代わる(代える), 混じる・混ざる (混ぜる)	伝わる(伝える), 肥やす(肥える), 減ぼす(減びる), 加わる(加える)	合う(合わす, 合わせる), 明け る(明かす, 明 く), 上げる(上 がる), 預ける (預かる), 集め る(集まる), 荒 れる(荒らす)	伝はる, 喜ば す, 浮ぶ, 押へる, 捕へる, 振ふ, 向ふ, 分る	驚カス, ル, 老 イバム
	浮かぶ(「浮く」の 未然形を含む。)	浮 ぶ	○	浮 ぶ	○	浮 ぶ	○
	動かす(「動く」 の未然形を含む。 「動す」は難読。 慣用があった。)	○	○	○	○	○	○
	及ぼす(「及ぶ」 の未然形を含む。 「及す」は難読。)	○	○	○		○	



	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
他 の 動 詞 と 関 係 の あ る 動 詞	語らう(「語る」の未然形を含む。「語う」では難読。慣用があった。)	○		○	○	○	○
	聞こえる(「聞く」の未然形を含む。初等教育で使用。)	聞える		聞える	聞える	聞える	
	積もる(「積む」の未然形を含む。)	積 る	○	積 る	○	積 る	積 ル
	照らす(「照る」の未然形を含む。慣用があった。)	○	○	○	○	○	○
	計らう(「計る」の未然形を含む。「計う」では難読。慣用があった。)	○	○	○	○	○	
	向かう(「向く」の未然形を含む。ある程度の慣用があった。)	向 う	○	○	○	向 ふ	○

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
他 の 動 詞 と 関 係 の あ る 動 詞	起こす(「起きる」 の語幹の「お」に 合わせた。初等 教育で使用。)	起 す	○	起 す	起 す	起 す	起 ス
	起こる(上と同 じ。)	起 る	○	起 る	起 る	起 る	起 ル
	終わる(「終える」 の語幹の「お」に 合わせた。初等 教育で使用。)	終 る	○	終 る	終 る	終 る	終 ル
	悔やむ(「悔いる」 の語幹「く」に合 わせた。初等教 育で使用。)	悔 む		悔 む	悔 む	悔 む	悔 ム
	定まる(「定める」 の語幹「さだ」に 合わせた。慣用 があった。)	○		○	○	○	○
	3 活用しない 部分に形容詞 の語幹を含む		(告示に同じ。)	第1 3 他の品詞 と関係のあ	第1 4 他の品詞 と関係のあ	第1 5 活用し ない部分	第2則 活用語 ノ活用セザル 部分ニ他ノ語

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
形 容 詞 と 関 係 の あ る 動 詞	動詞は、その 形容詞の送り がなによって 送る。			る動詞は、 その品詞の 送りがなを 基準として つける。 (イ) 形容詞と 関係のある もの	る動詞は、 その品詞の 送りがな の基準に従っ てつける。 (形容詞と関 係のあるも の)	に形容詞 の語幹を ふくむ動 詞は、そ のふくま れてゐる もの以外 をかな書 きとする。 語幹が 「し」で終 るものは、 「し」から 送る。	ノ活用形ヲ含 ムモノハ送仮 名トシテ之ヲ 書キアラハス ベシ。 (2) 動詞ノ中ニ 形容詞ノ活用 形ヲ含ムモノ。
	近づく	○ (近づき)	○	○		○	
	遠のく	○	○	○	○	○	○
	赤らめる			○	○	○	○
	重んずる	○ (重んじる)	○	○		○	
	怪しむ	○	○	○	○	○	○
	悲しむ	○ (悲しみ)		○		○	○

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
形容詞とある関係動詞	苦しがる	○		○	○	○	○
	他の例語 →			薄らぐ	甘やかす, 強まる, 弱める		楽シム, 悲シブ, 全クス, 辱クス, 全ウス, 悲シガル, 嬉シガル
形容動詞とある関係動詞	4 活用しない部分に形容動詞の語幹を含む動詞は, その形容動詞の送りがなによって送る。		(告示に同じ。)			第1 6 活用しない部分に副詞をふくむ動詞は, 副詞としての送りがなから送る。	
	確かめる	○	○	確める	○	○	確 ム
名詞と関係のある動詞	5 活用しない部分に名詞を含む動詞は, その名詞の送りがなによって送る。		(告示に同じ。)	第1 3 他の品詞と関係のある動詞は, その品詞の送りがなを基準として	第1 4 他の品詞と関係のある動詞は, その品詞の送りがなの基準に従っ	第1 7 活用しない部分に, 名詞をふくむ動詞は, そのふく	第15則 オヨソ 単語ニ当テタル 漢字, 僅カニ其 ノ一部分ニ該当 セリト見ユル場 合ニハ, 其ノ他 ハ送仮名トシテ

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
名 詞 と 関 係 の あ る 動 詞				つける。 (ロ) 名詞と関係のあるもの	てつける。 (名詞と関係のあるもの) [注意]「みる」は「み」(実)との関連があるが、慣用に従って「実る」と活用語尾だけを送る。	まれてゐるもの以外の部分をかな書きとする。 [注意] 象どる、司どる貫ぬく、伴なふ、荷なふ、実のる、基づく、画がく、などは、それぞれの漢字を、動詞を表はすものと見て、活用語尾だけを送っても差支へない。	書キアラハスベシ。
黄ばむ					○	○	○
春めく						○	○

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
名詞と関係のある動詞	先んずる	○ (先んじる)	○	○	○	○	○
	横たわる	○	○	○	○	○	○
	他の例語 →		基づく	先だつ	味わう, 色づく, 傷つける, 貫ぬく, 伴なう, 荷なう, 基づく, 指さす	指さす, 先だつ	指サス, 棹サス, 晝ガク, 鞭ウツ
複 合 動 詞	6 動詞と動詞とが結びついた動詞は, それぞれの動詞の送りがなによって送る。	3 動詞と動詞とからなる複合動詞は, 上の語の送りがなを省くことが多い。 [次のような語は, 上の語の送りを省かない。] ① 上の語が3音以上のとき。 ② 難読・誤読のおそれのあるとき。	(告示に同じ。)	第1 4 動詞と動詞と複合したものは, 前のにも後のにも送りがなをつける。	第1 5 複合動詞は, 以上の基準に従って, その一つ一つに送りがなをつける。	第1 8 動詞と動詞と複合したものは, 前のにも後のにも送りがなをつける。 [注意] 右において前の動詞が2音節で接頭語のやうに用ひられてゐる	第6則 漢字ノ2字以上ヲ以テ複合活用語ニ訓ジタル場合ニハ, ソレゾレ送仮名ヲ附スベシ。 除外 2音ノ動詞ノ上部ニ来リタルトキハ時宜ニヨリ, ソノ送仮名ヲ省クコトヲ得。

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
複		③ 上の語が実 質的な意味を 表わすとき。 ④ 下に来る語 がかな書きの とき。 など。				るもの及び 誤読のおそ れのないも のは、その 送りがなを 省くことが できる。	
合	移り変わる	移り変る	○		(移り変わり)		(移り変り)
	思い出す	○	○		○		○
	流れ込む	○	○				
動	譲り渡す	○	○	○	○	○	○
詞	他の例語 →			届け出る	歩み寄る, 受け 取る, 打ち破る, 押し寄せる, 落 ち着く, 繰り返 す, 差し押さえ る, 届け出る, 引き受ける, 申 し出る	(イ) 差出す, 引受ける (ロ) 成立つ, 割当てる	